

問 とうかい版ネウボラの進捗は

答 早期に包括支援センターを設置



公明党 植木 伸寿 議員

議員 子育て支援でも特に、産前・産後の取り組みを伺う。

福祉部長 村では、妊娠・出産コーディネーターによる母子健康手帳の交付時における個別相談のほか、助産師による乳児家庭全戸訪問を実施。必要に応じ、アドバイザー派遣やヘルプサポートなど必要なサービスへとつなげている。また、子育て応援ポータルサイトでの情報発信なども行っている。

議員 とうかい版ネウボラの設置に向けた進捗は。

福祉部長 地域包括ケアシステムの子育て版のように、保健、福祉などの関係部署・機関がチームを組み問題解決にあたっている先進事例がある。そうした事例に習い、早期に設置したい。



健康手帳交付時の様子

議員 産後ドウーラ（産後間もない母子へ寄り添う支援者のこと）の取り組みもある。村ではどう捉えているか。

福祉部長 産後ケアのメニューを増やすなど推進する。ドウーラについては先進自治体の研究をしたい。

議員 今後も、使い勝手の良い「子育て支援」のメニューが増えることを期待する。

問 商工会への職員派遣効果は

答 商工会と村は車の両輪



新政とうかい 笹嶋 士郎 議員

議員 今まで村は「商売は自分でするもの」と最小限の支援しか行つてこなかった。この派遣職員の業務が、商工業者の育成にどのような効果が見られるのか伺う。

村長公室長 商工会と村は、地域の商工業発展のため、車の両輪となつて取り組む必要があると考えている。派遣職員が、商工会の事務局職員とともに商工会青年部などのイベントなどに共に取り組むことにより、商工会員のみならず事務局との連帯感も生まれてい

ることが、1つの大きな効果と考えている。

議員 商工会の強化発展のためには、商工会・商工業者自らが手を上げ、自ら動き出すためのチャレンジが求められると思うが、考えを伺う。

村長公室長 既存の支援は継続しつつも、今後、村が実施する地域活性化への取り組みは、自らチャレンジしようとする商工業者への支援となることから、商工業の方にはその一歩を踏み出してもraitたいと考える。

